

大切なお米への感じ^やの気持ち

高屋西小学校 五年 池崎 玲咲

私達は7人家族です。家族が多いので、毎日たくさんのお米を炊きます。だから、おじいちゃん^やの生まれたところでつくっているお米をたくさん送ってきてくれます。特に新米の時期になると、いつとどくかわくわくしながら待つています。いつも三十キログラムずつ送ってくれるけど、わが家ではそのお米も二月月もせずい食べきってしまったいます。

新米がとどくと必ずすることがあります。それは、おむすびを作ることです。おじいちゃん^やが送ってくれるお米は、すきとおっている、もちもちしていてとても甘いです。塩おむすびにするとお米のおいしさがとてもよくわかります。さらに、おいしく食べるために土なべで炊きます。炊飯器より炊くまでに準備がかりますが、土なべで炊くご飯は格別です。おいしいお祝い物や干物も一緒に送ってくれるので、それもまだ楽しみの一つです。お米が

とどくと、毎日ご飯を食べるのが楽しみです。家族みんなでもメニューを考えます。よく作るのは、お寿司です。弟たちはたまごかけご飯が大好きで、お姉ちゃんたちは、ライスバールが大好きです。私もどれも好きですけど、ぱり、具たくさんのお味そ汁と食べる白ごはんが大好きです。

私たちは、当たり前のようにお米を食べているけど、今、社会では、高粒化が進み、農家になる人が少なく、さらに、食の洋風化で、

パンや肉を中心とした食生活になり、お米の消費量は年々下がりに続いているそうです。様々な問題をかかえている日本のお米づくりの問題を解決するためには、私たち、消費者がお米に対して関心を持つことが大切だと思います。スーパーなどのお店で、何気なく買っているお米も、当たり前のようにはありません。生産者の努力と苦勞のおかげだということをおすれ、はいけないとおじいちゃんに教えてもらいました。私たちは、積極的に、お米を

消費するため、スーパーにならぶお米を^選ぶとき、地元のお米をこうに^ゆうしたりしています。また、ふるさと納税を活用して、全国各地のいろいろなお米を食べています。

今、お米づくりがかかえる問題は、私たちの知らないところで^深くくなものになってい
るそうです。でも、日本人の主食である、欠
かせないお米だからこそ、消費者の私たちが、
一緒に大切に守り続けていきたいと思いまし
た。これからも農家さんへの^感謝の気持ち
をわすれず、一食、一食大切にいただけたい
と思います。